



大野耐一の言葉

- グループ活動も、たとえば1人1件平均ですといっても、出す人は5件も6件も出す。あるいは出さない人は1つも出さないなんてことであっては大きな力にならないので、結局このグループで1つの改善案をつくりあげていく。そのうちに、いつも俺は何も言わないけれども、グループで賞をもらうと、何かいわなくてはいけなくなる。これは本人が自分を困らせるひとつのことになる。そういう人がひょいと言った一言が、リーダーによっては「うまいこといったなあ、お前の提案はいいぞ」なんて言ってやると、あんなことでいいのかなあ、というふうになってくる、だんだん提案してくれるようになるんじゃないか。
それが個人個人でやると、あいつはいつもたくさんもらうけど、俺はないからダメなんだ、というふうに思わせるのでは、長い間やっているとその差というのは非常に大きくなる。